

# ネズミギス *Gonorhynchus abbreviatus* TEMMINCK et SCHLEGEL とと思われる稚魚について\*

古川一郎

(南海區水産研究所延岡支所)

Clupeoid fry possibly referable to *Gonorhynchus*  
*abbreviatus* TEMMINCK et SCHLEGEL

(with 1 text-fig.)

Ichiro FURUKAWA

(Nobeoka Branch of Nankai Regional Fisheries Research Laboratory)

沿岸に來游する幼稚魚について、その組成の變動を季節的地域的に調査研究する事は生態學的にばかりでなく、資源學的にも重要である。各種シラスの出現の量的、種別的變動を季節的に研究した、石山\*によれば、同年を通じて沿岸に最も多く現われるものはカタクチイワシでこれにマイワシ、ウルメイワシがついでで、イワシ類稚魚の量が壓倒的に多い。筆者は 1948 年以來日向灘に於けるシラスを含めた各種幼魚について若干の研究を進めてゐるが、宮崎縣中部沖合 8~10 哩の表層からイワシ類稚魚に酷似する稚魚を多量に採集した。採集された時期は 9 月~翌 3 月頃迄で、出現時期はマイワシより稍早い、大体イワシ類稚魚の出現時期と期を一にしており、形態が殊にウルメイワシと誤認され易いのでここに報告する。本稚魚は果して何の稚魚なりや現在斷定出來ぬが、筆者は後述の点で *G. abbreviatus* T. et S. ならずやと考へる。本研究について、東海水研中井技官より多大の御指導を頂いたので茲に厚く深謝する。

## 1. イワシ類稚魚と本稚魚との比載

採集した本稚魚は圖 1 に示した通りであるが、イワシ類稚魚と相似てゐる点が多いので、それら稚魚との類似点相違点を列擧すると次表の様になる。体長は略同じ様なものについて比較する。

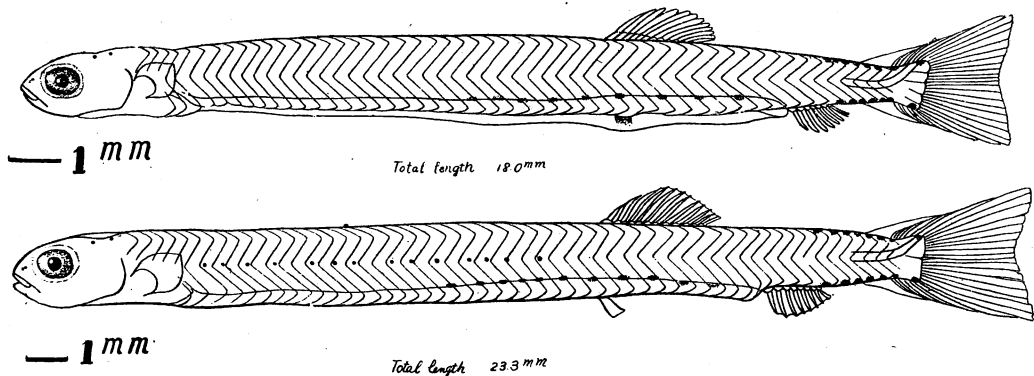


表 1 に示す如く本稚魚はイワシ類稚魚殊にウルメイワシ<sup>1</sup> との間に類似点が多いが、全長に對する頭長の比、脊鰭及背鰭の軟條數、色胞の分布狀態、口裂等の点で明に識別される。殊に全長に對する頭長の比及び特徴的な尾柄部上下面に並列する黑色胞群は最も顯著でこれのみで他のイワシ類との識別が可能である。

\* 南海區水産研究所業績 22

<sup>1</sup> 吉田裕 1932「ウルメイワシ」の生活史について 樂水會誌 2 (23)

2. 本稚魚と *G. abbreviatus* との比較

採集された本稚魚の体長範囲は 6.5mm~21.0mm であつたが、成長に伴ふ体各部の proportion は余り著しい変化が見られない。本稚魚の特徴的な尾柄部上下面の色胞群は 10mm 位では顯著では無いが線状を爲して明らかに認められる。全長 18mm (体長 16.8mm) では脊鰭臀鰭の軟條は略定數に達するか腹鰭に未だ膜狀鰭の程度である。体長 21mm で腹鰭は略完全に分化するが鰭條は未だ充分でない。

表 1

	本 稚 魚 (全長23.3mm)	ウルメイワシ* (全長23mm)	マイワシ* (全長20mm)	カタクチワシ* (全長27mm)
脊鰭軟條數	11~12	20	16	14
臀鰭軟條數	7~8	11	17	18
口 裂	小さく眼の前縁に達しない	大きく眼の前縁をこす	稍大きく眼の中央下に達す	大で眼の後縁をこす
吻	円鈍、下顎は上顎に比し短い	突出する、下顎稍上顎より長い	突出するもウルメイワシの如く顯著ならず	円鈍
脊椎骨數	55 (41+14)	52~55	49~52	43~46
肛門位置	第42~43筋節下に開く	第43筋節下に開く	第40筋節下に開く	第28~29筋節下に開く
腹鰭位置	第33筋節下に位置す	第30~31筋節下に位置す	第19~21筋節下に位置する	第14~15筋節下に位置する
臀鰭基部	第35~41筋節間を占む	第32~42筋節間を占む	第28~35筋節間を占む	第22~30筋節間を占む
臀鰭基部	肛門直后 4 筋節を占む	肛門直后 5 筋節を占む	肛門直后 5 筋節を占む	肛門直后 9 筋節を占む
頭長/体長	0.123	0.192	0.178	0.220
吻長/頭長	0.236	0.359	0.262	0.134
黒色素分布	尾柄脊腹両面に 5~7 星状黒色胞列あり、特に顯著なる点なり、胸鰭後方より胸鰭前方に至る側腺部位に十數個の黒点列あり、又頭頂部に個の小黒点が三角形状に並ぶ、腹面筋部下消化管上に黒色胞あるもウルメイワシの如く顯著ならず	幽門部より前方体側筋肉下縁に黒点列あり、それより後方の消化管腹面には腹鰭基部をこえ、肛門直前迄腹中線を挟む黒点列あり、尾鰭下葉、尾柄腹面、前胸部に少數の黒色胞あり	臀鰭基部より前方の体側胞肉筋下縁に黒点列あり、腹鰭より後方の消化管腹面腹中線を挟み黒点の疎列あり、消化管面の腹腔内にも黒点列現はる前胸部肛門脊面、臀鰭及尾鰭基部にも少數の黒色胞現はる	腹部下方側面、臀鰭基部に比較的大なる黒点列あり、前胸部、尾柄腹面にも現はれる腹腔腹面及び脊椎骨腹面の黒点列は筋肉を通して見える尾鰭上にも若干黒色胞あり

\* 印の記載は内田惠太郎 1949 魚綱 (幼生) 日本動物圖鑑より轉載した。

表 2

	<i>G. abbreviatus</i> (体長 18.8cm~27.4cm) (測定個体 8 尾)	本 稚 魚 (体長 7.0mm~21.0mm) (測定個体 10 尾)
HL/BL	0.230 ~ 0.255	0.120 ~ 0.140
ED/HL	0.210 ~ 0.230	0.265 ~ 0.290
SL/HL	0.375 ~ 0.400	0.200 ~ 0.265
吻一臀鰭間距離 体長	0.825 ~ 0.865	0.800 ~ 0.870
吻一腹鰭間距離 体長	0.665 ~ 0.690	0.625 ~ 0.660
吻一腹鰭間距離 体長	0.680 ~ 0.720	0.640 ~ 0.690
D.F 軟條	12	11~12
A.F 軟條	8	7~8
脊椎骨數	55 (44+11) 43+12)	55 (41+14)

次に本稚魚と *G. abbreviatus* との類似点を列挙すると表2の如く、脊鰭、臀鰭の軟條數、脊椎骨數、肛門位置、各鰭の相對的位置等の点で、本稚魚を *G. abbreviatus* の稚仔と考えてよさそうである。体の各部の比例を稚仔と成体とで比較すると、HL/BL\*, SL/HL\* がかなり相違する。これは成体の頭部が成長に伴つて極めて特徴的變化を遂げ、吻は鼠のそれの如く突出するために稚仔と成体とでこの様な違いが出てくるのではないかと思はれる。一方 S-AF/BL\*, S-DF/BL\*, S-VF/BL\* については若干の相違は見られるが、相對的な位置の違いが見られない。AF, VF, DF が稚仔に比べて成長に伴ひ、体の後位に位置する様になるのは吻の突出に伴ひ、体長との比が大きくなるからであらう。成体に特徴的な吻及び上下唇の Barbel, 吻下面の Barbel 等は本稚魚に見られぬ点であるが、成体は日向灘方面でも可成り稀な種類であるがその稚魚が毎年定期的に比較的多量に獲られる事に疑問がある。しかし前述の諸点で *G. abbreviatus* と同定したが、更に今後資料の補足を俟つて明にする積りである。

### 摘 要

1. *G. abbreviatus* T. et S. の稚魚と思われるものに就てイワシ類稚魚との比較検討を行ひ、明に區別出來た。即ち全長に對する頭長の比、脊鰭、臀鰭軟條數の異なる点、黑色胞殊に尾柄部上下面に表れる黑色胞群が兩者の識別点である。
2. 本稚魚と *G. abbreviatus* との比較検討を行ひ、脊鰭臀鰭軟條數、脊椎骨數、各鰭の相對的地位が酷似してゐるので一應 *G. abbreviatus* と判定した。

### Résumé

Surface tow collection was made at 8~10 miles off the middle eastern coast of Miyazaki Prefecture during the winter of 1949 to 1950. It resulted in rich gathering, amongst others, of fry of clupeoid fishes. Of these, one form resembles closely with that of *Etrumeus micropsis*, but differs from it in several important characters as given in Table 1. While casting about possible adult of it, *Gonorhynchus abbreviatus* T. et S. has come to the picture. This species, however, is rather rare in this region "Hyuga Nada", so far 10 specimens having been obtained. And yet coincidence in the number of rays of dorsal and anal fins and in the vertebral number (Table 2) coupled with similarity in relative position of anal and dorsal fins (Fig 1) warrants one a preliminary reference of the fry to the species in question.

\* HL/BL Head Length と Body Length の比 \*SL/HL Snout Length と Head Length との比  
 \* S-AF/BL Snout から Anal Fin までの距離と Body Length の比  
 \* S-DF/BL Snout から Dorsal Fin 前縁基部迄の距離と Body Length の比  
 \* S-VF/BL Snout から Ventral Fin 前縁基部迄の距離と Body Length との比